



流水雲旅

11月 - 去

G&S
根雨

「いつか見た風景」1970年 タイプCプリント

北井一夫写真展 2021年1月15日(金)～3月2日(火)

人生を大きな旅と捉えるならば、自分自身の姿勢を確保し、思考を重ね、不安を払拭し、目標を定めて、困難でも歩みを進めなければならない。北井一夫の人生では、無数の旅が、折り重なるように展開された。敗戦後の大陸からの引き上げ、幼少期の引っ越し、長じては、写真との格闘、過激派の時代をくぐり、三里塚を経て、日本全国への撮影行、ヨーロッパへの取材など、成長は、旅とともにあったといっても過言ではないだろう。「1980年に」あたりに戻って、その前後の北井の旅を、新しい視座で、現在、過去、未来の手紙のやりとりのように、この壁に再

現してみようかと思う。彼の旅は、すんなりと撮り上げるスナップ世界とは異なり、まるで時間を擱めとするようなタイムカプセル的、作品群により、まさに過激に埋め尽くされる。そして、旅の始まりでありながら、中核をなす津軽への旅こそ、つげ義春から伝授された旅の味わい、その捕獲への分岐点、新たな道程の開始だった。

さて、同行する我々の旅は、どういう明日へ連なるのだろうか？

企画：石井仁志／G&S 根雨 プロデューサー

北井一夫写真展 流れ雲旅

2021年1月15日(金)－3月2日(火)

開廊時間：13:00-19:00 | 休廊日：水曜・木曜

入場無料、作品販売あり

作家在廊予定：1月22日(金)～25日(月)



「1980年に」1979年 ゼラチンシルバープリント



「フランス放浪」1972年 タイプCプリント

北井 一夫 (1944-)

1944年 満州鞍山生まれ。日本大学芸術学部写真学科中退。『三里塚』『村へ』『いつか見た風景』『フナバシストーリー』『1990年代北京』などドキュメンタリー的な写真を撮影、発表してきた。1972年、第22回日本写真協会新人賞。76年、第1回木村伊兵衛写真賞。2013年、日本写真協会作家賞を受賞。出版物は膨大、2020年10月に平凡社より『過激派の時代』も発刊。個展も多数開催。

石井 仁志 (1955-)

プロデューサー・ディレクター(G&S 根雨)

細江英公、北井一夫をはじめ、多くの写真家の展示を企画運営。近現代文化史研究、中島健蔵研究、音楽、写真、映像、文学と幅広い執筆活動を展開。清里フォトアートミュージアムのヤングポートフォリオ、新潟大学地域映像アーカイブを支援協力。「生誕百年 中島健蔵展」監修(2004年 東京都写真美術館)『占領期雑誌資料大系大衆文化編』全5巻(2009年 岩波書店)編集・執筆。

トークイベント

北井一夫 × 石井仁志 (G&S 根雨 プロデューサー)

①プチトーク「この展覧会の見どころと私の旅」

1月22日(金)19:00～20:00 | 参加費：1,000円、要予約

②「北井写真の魅力とは？ 人生すべからく、流れ雲旅」

1月24日(日)14:00～15:30 | 参加費：2,500円(ドリンク付)、要予約

*終了後、サイン会予定

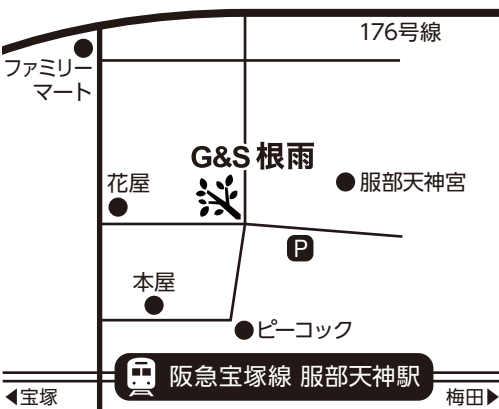
*12月10日より電話・webサイトにて申込み受付開始

G&S
根雨

» <https://gsneu.info>



Follow us!



阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分
駐車場なし *近隣のコインパーキングをご利用ください

561-0851 大阪府豊中市服部元町1-6-11F

Tel: 06-7709-3790 | E-mail: g.s.neu.contemporary@gmail.com